

学習したことを確かめよう

年 組 番 名前

一 次のアから力の言葉を「和語」「漢語」「外来語」「混種語」に分け、それぞれ記号で答えなさい。

ア	てんぷら	イ	メディア	ウ	言葉	エ	ぼく	オ	花火大会	カ	歩く
和語	()										
漢語	()										
外来語	()										
混種語	()										

二 次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の①、②の()に自動詞と他動詞が対応するように書きなさい。

〔例〕お湯がわく。⇄ お湯を(わかす)。

① 枝が折れる。⇄ 枝を()。

② ドアが()。⇄ ドアをあける。

(2) 次の①から③の文を「」の指示に従って、書きかえなさい。

① ねずみが猫に追いかけられた。【「猫」を主語にする。】

↓猫がねずみを()。

② 中川さんは上田さんと呼んだ。【「上田さん」を主語にする。】

↓上田さんは中川さんに()。

③ 兄は妹にプレゼントをあげた。【「妹」を主語にする。】

↓妹は兄からプレゼントを()。

三 次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の①から⑦の——線部の言葉を漢字で書きなさい。必要ならば送り仮名を書きなさい。

① 開会式にのぞむ。

② きたる十月一日に、定期演奏会が開催される。

③ 感きわまり、涙がこぼれた。

④ たくさんの人がつどう。

⑤ いっちょういっせきにできるものではない。

⑥ 文明はっしょうの地を訪ねる。

⑦ 先ほどの発言をてつかいする。

(2) 次の①から⑤の——線部の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

① 挿絵がかわいい本を見つけた。

② 互いの健闘を称えた。

③ 溪流で魚釣りをした。

④ 視界を遮るものは何もない。

⑤ タオルで手を拭く。

()	()	()	()	()
く	る			
()	()	()	()	()

学習したことを確かめよう

年 組 番 名前

一 次のアから力の言葉を「和語」「漢語」「外来語」「混種語」に分け、それぞれ記号で答えなさい。

ア てんぷら イ メディア ウ 言葉 エ ぼく オ 花火大会 カ 歩く

和語	(	ウ、カ	)	漢語	(	エ	)
外来語	(	ア、イ	)	混種語	(	オ	)

二 次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の①、②()に自動詞と他動詞が対応する〔例〕お湯がわく。⇔ お湯を(わかす)。

① 枝が折れる。⇔ 枝を(折る)。
② ドアが(あく)。⇔ ドアをあける

(2) 次の①から③の文を「」の指示に従って、書

① ねずみが猫に追いかけられた。「猫」を主語に
↓猫がねずみを(追いかけた)。

② 中川さんは上田さんと呼んだ。「上田さん」を
↓上田さんは中川さんに(呼ばれた)。

③ 兄は妹にプレゼントをあげた。「妹」を主語に
↓妹は兄からプレゼントを(もらった)。

◆解説◆
和語は、もともと日本で使われていた言葉で、平仮名で書かれたり、訓読みで表されたりします。漢語には、古くに中国から入ってきた言葉や日本で作られた言葉があります。「ぼく」(僕)のように、平仮名で書かれていても音読みする語であれば、漢語です。外来語は、中国以外の外国から入ってきた言葉で、片仮名で書くものが多くあります。外来語の意識が薄くなっているものは、平仮名や漢字で書かれる場合もあります。

混種語は、和語、漢語、外来語が組み合わさってできた言葉です。

三

◆解説◆
同じような事柄を述べていても、誰(何)を主語にするかによって、表現が変わってきます。①、②は、受け身の表現と使役の表現の違い、③は、やりもらい(したこと・されたこと)の表現による書きかえになっています。

き

①	開会式にのぞむ。	(	臨む	)
②	きたる十月一日に、定期演奏会が開催される。	(	来る	)
③	感きわまり、涙がこぼれた。	(	極まり	)
④	たくさんの人がつどう。	(	集う	)
⑤	いっちゃんいっせきにできるものではない。	(	一朝一夕	)
⑥	文明はっしょうの地を訪ねる。	(	発祥	)
⑦	先ほどの発言をてっかいする。	(	撤回	)

(2) 次の①から⑤の——線部の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

①	挿絵がかわいい本を見つけた。	(	さしえ	)	
②	互いの健闘を称えた。	(	けんとう	)	
③	溪流で魚釣りをした。	(	けいりゅう	)	
④	視界を遮るものは何もない。	(	さえぎ	る	)
⑤	タオルで手を拭く。	(	ふ	く	)